

米國獨立記念日に當り 伯國より祝賀プロロ放送



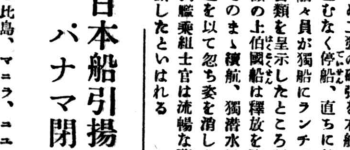
【ワシントン四日電】米國獨立記念日に當り、ワシントンから伯國へ祝賀の電報が送られた。この電報は、米國國務院の代表が、伯國の大統領に宛てて送られたものである。電報には、米國の獨立記念日に當り、伯國の獨立記念日も祝賀する旨が述べられている。また、米國の大統領が、伯國の大統領に宛てて祝賀の電報を送ったことについても述べられている。

米國獨立記念日に當り 伯國より祝賀プロロ放送



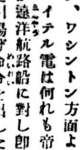
【ワシントン四日電】米國獨立記念日に當り、ワシントンから伯國へ祝賀の電報が送られた。この電報は、米國國務院の代表が、伯國の大統領に宛てて送られたものである。電報には、米國の獨立記念日に當り、伯國の獨立記念日も祝賀する旨が述べられている。また、米國の大統領が、伯國の大統領に宛てて祝賀の電報を送ったことについても述べられている。

米國獨立記念日に當り 伯國より祝賀プロロ放送



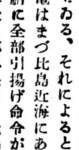
【ワシントン四日電】米國獨立記念日に當り、ワシントンから伯國へ祝賀の電報が送られた。この電報は、米國國務院の代表が、伯國の大統領に宛てて送られたものである。電報には、米國の獨立記念日に當り、伯國の獨立記念日も祝賀する旨が述べられている。また、米國の大統領が、伯國の大統領に宛てて祝賀の電報を送ったことについても述べられている。

政府の對外策宣明 亞國上院から要請



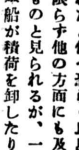
【ワシントン四日電】政府の對外策を宣明するに當り、亞國上院から要請が出された。この要請は、政府の對外策が、亞國の利益を保護し、世界の平和を維持することを目的とするものであると述べられている。また、政府の對外策が、亞國の獨立と主權を尊重することを要請されている。

伯國船虎口を脱す 獨潜水艦から停船命令



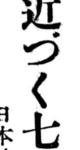
【ワシントン四日電】伯國の船が、獨潜水艦から停船命令を受けた。この停船命令は、獨潜水艦が、伯國の船を停船させたことに対するものである。伯國の船は、獨潜水艦から停船命令を受けた後、安全な場所に避難した。この事件は、伯國と獨逸との間に緊張を生じさせた。

英ソ兩大使を招致 援ソ工作を密議か



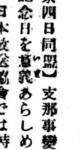
【ワシントン四日電】英ソ兩大使を招致し、援ソ工作を密議したと報じられた。この密議は、英ソ兩大使が、援ソ工作について話し合ったことに関するものである。この密議は、英ソ兩大使の間で進められていたとされている。

日本船引揚げ命令? パナマ閉鎖説又飛ぶ



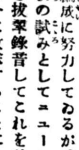
【ワシントン四日電】日本船の引揚げ命令が出されたか、パナマの閉鎖説が再び飛ぶと報じられた。この報じは、日本船の引揚げ命令が出されたことに関するものである。また、パナマの閉鎖説が再び飛ぶことについても報じられている。

近づく七月七日 日本放逐局特別プロ編輯



【ワシントン四日電】七月七日に近づくにつれて、日本放逐局の特別プロ編輯が進められていると報じられた。この特別プロ編輯は、日本放逐局の特別プロ編輯である。この特別プロ編輯は、七月七日に近づくにつれて進められているとされている。

重慶側の弱味を指摘 財政援助に苦言



【上海四日電】重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べた。この苦言は、重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べたことに関するものである。この苦言は、重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告



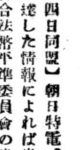
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

佛軍サロニカに集結 シリアを救援か



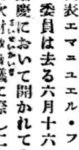
【ワシントン四日電】佛軍がサロニカに集結し、シリアを救援する可能性がある。この集結は、佛軍がサロニカに集結し、シリアを救援する可能性があることに関するものである。この集結は、佛軍がサロニカに集結し、シリアを救援する可能性があることに関するものである。

落下傘降下 世界新記録 亞國人が樹立



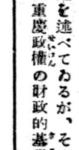
【ワシントン四日電】落下傘降下の世界新記録が亞國人によって樹立された。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告



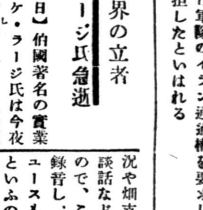
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

松岡外相 参内



【ワシントン四日電】松岡外相が参内したと報じられた。この参内は、松岡外相が参内したことに関するものである。この参内は、松岡外相が参内したことに関するものである。

英ソ、イラン國へ 軍隊通過を強要



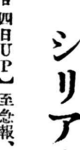
【ワシントン四日電】英ソ兩國は、イラン國へ軍隊の通過を強要した。この強要は、英ソ兩國が、イラン國へ軍隊の通過を強要したことに関するものである。この強要は、英ソ兩國が、イラン國へ軍隊の通過を強要したことに関するものである。

工業界の立者 ラーティ氏急逝



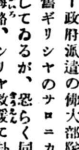
【ワシントン四日電】工業界の立者であるラーティ氏が急逝した。この急逝は、ラーティ氏が急逝したことに関するものである。この急逝は、ラーティ氏が急逝したことに関するものである。

佛軍サロニカに集結 シリアを救援か



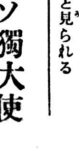
【ワシントン四日電】佛軍がサロニカに集結し、シリアを救援する可能性がある。この集結は、佛軍がサロニカに集結し、シリアを救援する可能性があることに関するものである。この集結は、佛軍がサロニカに集結し、シリアを救援する可能性があることに関するものである。

駐ソ獨大使 トルコ境へ到着



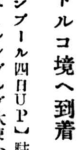
【ワシントン四日電】駐ソ獨大使がトルコ境へ到着したと報じられた。この到着は、駐ソ獨大使がトルコ境へ到着したことに関するものである。この到着は、駐ソ獨大使がトルコ境へ到着したことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告



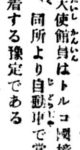
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

落下傘降下 世界新記録 亞國人が樹立



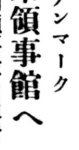
【ワシントン四日電】落下傘降下の世界新記録が亞國人によって樹立された。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告



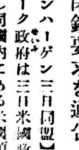
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

松岡外相 参内



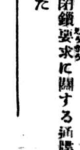
【ワシントン四日電】松岡外相が参内したと報じられた。この参内は、松岡外相が参内したことに関するものである。この参内は、松岡外相が参内したことに関するものである。

重慶側の弱味を指摘 財政援助に苦言



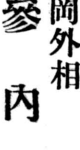
【上海四日電】重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べた。この苦言は、重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べたことに関するものである。この苦言は、重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告



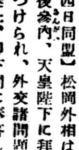
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

落下傘降下 世界新記録 亞國人が樹立



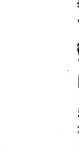
【ワシントン四日電】落下傘降下の世界新記録が亞國人によって樹立された。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告



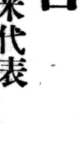
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

松岡外相 参内



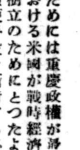
【ワシントン四日電】松岡外相が参内したと報じられた。この参内は、松岡外相が参内したことに関するものである。この参内は、松岡外相が参内したことに関するものである。

重慶側の弱味を指摘 財政援助に苦言



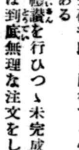
【上海四日電】重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べた。この苦言は、重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べたことに関するものである。この苦言は、重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告



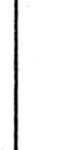
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

落下傘降下 世界新記録 亞國人が樹立



【ワシントン四日電】落下傘降下の世界新記録が亞國人によって樹立された。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告



【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

荷
青長胡瓜 (天和新選種)
セノラ・メーア
コムブリーダ (ナンテータ)
アルファツセ・レポリユーダ
右何れも州農務局試験の結果
発芽九十三パーセント以上

聖市伊藤商會
本年は品薄です
賣切ぬ内御注文を
Rua Tapanandé, 60
C. Ispahani, São Paulo

アルセニアツト・デ・シムボ
アルセニアツト・ブランコ
本年は品薄です
賣切ぬ内御注文を

F. Guedes
Rua Oriente, 790 - Telefone, 3-1670
SAO PAULO
直輸入商
滑石、硝子、磁土等の原料品
石鹼、香水製造用色素
飲料水、菓子、ペーパ等の材料及色素
化學原料

落下傘降下 世界新記録 亞國人が樹立
【ワシントン四日電】落下傘降下の世界新記録が亞國人によって樹立された。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

松岡外相 参内
【ワシントン四日電】松岡外相が参内したと報じられた。この参内は、松岡外相が参内したことに関するものである。この参内は、松岡外相が参内したことに関するものである。

重慶側の弱味を指摘 財政援助に苦言
【上海四日電】重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べた。この苦言は、重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べたことに関するものである。この苦言は、重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

落下傘降下 世界新記録 亞國人が樹立
【ワシントン四日電】落下傘降下の世界新記録が亞國人によって樹立された。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

松岡外相 参内
【ワシントン四日電】松岡外相が参内したと報じられた。この参内は、松岡外相が参内したことに関するものである。この参内は、松岡外相が参内したことに関するものである。

重慶側の弱味を指摘 財政援助に苦言
【上海四日電】重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べた。この苦言は、重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べたことに関するものである。この苦言は、重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

落下傘降下 世界新記録 亞國人が樹立
【ワシントン四日電】落下傘降下の世界新記録が亞國人によって樹立された。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

リウマチスで御困りの方は是非本機で!
的確な効果
素晴しい
キ、メ
伯國總代理店 加藤商會
聖市ル・オンゼ・デ・アゴス二八八 電話二八九五三

カナカ才化學工業株式會社
肥料、農具、藥品、ニカワ
サンパウロ市テオドロ・サンバイオ街二七五番
電話二二八六番 電話八二五八七番
イタノラ・ミラン 街一七七一九
電話二六六三七番

アルセニアツト・デ・シムボ
アルセニアツト・ブランコ
本年は品薄です
賣切ぬ内御注文を

F. Guedes
Rua Oriente, 790 - Telefone, 3-1670
SAO PAULO
直輸入商
滑石、硝子、磁土等の原料品
石鹼、香水製造用色素
飲料水、菓子、ペーパ等の材料及色素
化學原料

落下傘降下 世界新記録 亞國人が樹立
【ワシントン四日電】落下傘降下の世界新記録が亞國人によって樹立された。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

松岡外相 参内
【ワシントン四日電】松岡外相が参内したと報じられた。この参内は、松岡外相が参内したことに関するものである。この参内は、松岡外相が参内したことに関するものである。

重慶側の弱味を指摘 財政援助に苦言
【上海四日電】重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べた。この苦言は、重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べたことに関するものである。この苦言は、重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

落下傘降下 世界新記録 亞國人が樹立
【ワシントン四日電】落下傘降下の世界新記録が亞國人によって樹立された。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

松岡外相 参内
【ワシントン四日電】松岡外相が参内したと報じられた。この参内は、松岡外相が参内したことに関するものである。この参内は、松岡外相が参内したことに関するものである。

重慶側の弱味を指摘 財政援助に苦言
【上海四日電】重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べた。この苦言は、重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べたことに関するものである。この苦言は、重慶側の弱味を指摘し、財政援助に苦言を述べたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

落下傘降下 世界新記録 亞國人が樹立
【ワシントン四日電】落下傘降下の世界新記録が亞國人によって樹立された。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。この世界新記録は、亞國人によって樹立されたことに関するものである。

米領事館へ 閉鎖要求を通告
【ワシントン四日電】米領事館へ閉鎖要求を通告したと報じられた。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。この閉鎖要求は、米領事館へ閉鎖要求を通告したことに関するものである。

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

日乃華
豊富其在

O Japão declarararia uma zona de segurança

FRACASSOU COMPLETAMENTE A "CONTRA-OFFENSIVA" DE CHANG-KAI-CHEK

As forças de Chungking sofreram tremendas derrotas no decorrer das operações do corrente ano — Mais de dois milhões de combatentes chineses enfrentaram as forças imperiais — O 4.º aniversário do conflito

TOKYO, 4 (D.) — Comunica o Quartel General Imperial: "Chang-Kai-Chek proclamou o ano da vitória chinesa" e desde Dezembro do ano passado, iniciou a reorganização do seu exército e planejou uma contra-offensiva geral para o mês de Maio último. Ao mesmo tempo, o governo de Chungking, procurando prejudicar o desenvolvimento do governo de Nankin, enviou guerrilheiros especiais e outros elementos combatentes. Fortaleceu a sua política de dependência de terceiras potências, para restabelecer as suas debilitadas forças de resistência. Contra esse movimento de Chungking, as forças de terra e ar do Império, num total de um milhão de homens, numa admirável cooperação íntima, destruíram as forças inimigas em muitos setores, destruindo a sua combatividade. Assim a "contra-offensiva" de

Chang-Kai-Chek fracassou completamente. Como resultado destas operações foram também cortadas as rotas de fornecimento do regime de Chungking, que sofreu um tremendo golpe na sua economia. Contrariamente, nas regiões ocupadas pelas nossas forças, as obras de restauração estão sendo aceleradas, contribuindo enormemente na obra profícua do governo de Nankin.

Os resultados das operações de Janeiro a Junho do corrente ano:

Forças inimigas em luta: cerca de 3.179.000 homens; número de combates: 12.000; canhões inimigos abandonados em campo: 101.700; prisioneiros: 84.700; canhões apreendidos: 101; canhões metralhadoras: 18; morteiros: 308; metralhadoras pesadas: 471; metralhadoras leves: 498; fuzis: 47.277; automóveis: 16; vagões

de passageiro e carga: 85; embarcações, 78.

Perdas japonesas — 5.119 mortos. Relação das perdas entre chineses e japoneses: 37 a 1.

AS OPERAÇÕES MILITARES DA CHINA DE JANEIRO A JUNHO DO CORRENTE ANO — O 4.º ANIVERSÁRIO DO CONFLITO

TOKYO, 3 (D.) — Comemorando no dia 7 do corrente o quarto aniversário do advento do conflito nipo-chinês, a Secção de Informações do Grande Quartel General Imperial publicou, às 11 horas de hoje, um resumo do resultado das operações levadas a efeito nas várias frentes da China desde o mês de Janeiro a Junho do corrente ano. Segundo esse comunicado foram dos maiores os êxitos alcançados pelas valorosas forças imperiais, elevando à grande extensão as posições ocupadas. Os

materiais de guerra conquistados elevam-se também a grande número, tendo sido enormes os prejuízos causados.

PROGRAMA ESPECIAL DA EMISSORA JAPONESA

TOKYO, 4 (D.) — A Sociedade de Rádio do Japão está se esforçando para organizar um programa condigno à data, para comemorar o 4.º aniversário do conflito chinês. Como uma nova experiência a emissora japonesa vai irradiar para o "front" e o exterior, gravações de jornais cinematográficos. O jornal em questão será o n. 16, da Nippon Eiga Sha, que reúne gravações do incidente da ponte Liackokyo, origem do conflito, até as mais recentes batalhas. Haverá também uma declaração do general Hata, comandante geral das forças japonesas da China. As irradiações obedecerão ao seguinte horário:

DIA 7: As 11 horas, para o leste dos Estados Unidos.

As 19,40, para o "front" da China.

As 20 horas, para China e Mar do Sul.

DIA 8: A 1 hora, para o sudoeste da Ásia.

As 4 horas, para Europa.

As 14 horas, para Hawaii.

O AUXILIO ANGLO-NORTE-AMERICANO A UNIÃO SOVIÉTICA E O JAPÃO — CIDADÃOS RUSSOS ABANDONAM O JAPÃO — O JAPÃO NÃO INTERVIRIA NO CONFLITO RUSSO-ALEMÃO — CRISE A LESTE DA ASIA — COMENTÁRIOS DOS JORNAIS — DECLARAÇÕES DE IMPORTANCIA TRANSCENDENTAL

TOKYO, 4 (U. P.) — O porta-voz da Chancelaria, sr. Hoh Ishii anunciou que o governo japonês estuda, no momento, a perspectiva de declarar uma zona de segurança em suas águas territoriais que, segundo parece, seria similar à zona adotada pelos países americanos, com o fito de manter afastados os navios beligerantes de suas costas.

Por sua vez, o diário "Hochi" instou repetidas ocasiões o governo a adotar medidas de precaução, prevenindo algum acontecimento embaraçoso para o Japão na hipótese de que os Estados Unidos tentem levar armas para Vladivostok, destinadas ao Exército russo.

Acenuta o referido jornal que, para isso, as únicas rotas acessíveis são as do estreito de Tsugaru e de Soya, situadas em águas territoriais nipônicas. Assinala ainda que, no caso desse suceder, os alemães poderiam enviar submarinos àquela zona, acrescentando que, embora o Japão esteja restringido pelo pacto tripartite e o acordo de neutralidade com a Rússia, não pode manter sua indiferença diante da ajuda anglo-norte-americana à União Soviética, que viria ameaçar os seus interesses.

TOKYO, 3 (T. O.) — Conforme anuncia hoje à tarde a imprensa japonesa, numerosos cidadãos russos, residentes no território nipônico, fazem preparativos ativos para abandonar o Japão. De Tokyo já partiram cerca de 100 pessoas.

O JAPÃO NÃO INTERVIRIA NO CONFLITO RUSSO-ALEMÃO

TOKYO, 3 (U. P.) — Prevalendo, nos círculos diplomáticos locais a impressão de que a anunciada decisão do governo japonês de respeitar, a um só tempo, o pacto tripartite e o acordo de neutralidade com a Rus-

sia, é o resultado de um convênio com Berlim tendente a manter de pé a reserva do Japão, relativamente aos Estados Unidos, com o intuito de impedir que o referido país entre na guerra.

A conservação dessa política de vigilante expectativa é, ao que parece, a única concessão solicitada ao governo de Tokyo, em troca do reconhecimento do governo de Wang-Ching-Wei, pelas potências do "eixo" e os seus aliados europeus.

Os comentaristas diplomáticos calculam, por outro lado, que a referida decisão pode também ser interpretada como sendo um êxito da diplomacia do "eixo", uma vez que o referido reconhecimento evitou que o Japão adotasse uma política inteiramente independente, em relação à situação internacional.

Nos círculos locais do "eixo", encara-se com indiferença a possibilidade de um ataque japonês contra a Rússia por se considerar que a Alemanha e os seus aliados podem por si sós, derrotar a União Soviética e que a ajuda que os Estados Unidos poderiam enviar pelo caminho de Vladivostok chegaria muito tarde. Não dissimulam, entretanto, a sua preocupação dos Estados Unidos, na contenda e por conseguinte, ampliam os seus esforços tendente a intensificar a tensão entre os governos de Tokyo e Washington procurando assim restringir a liberdade de ação deste último.

Um editorial hoje divulgado pelo jornal "Yomiuri" vem corroborar a indicação de que a decisão adotada na conferência imperial eliminou toda a ideia de intervenção no conflito russo-alemão. Concordou-se, entretanto, em concentrar todos os recursos nacionais, na execução do programa de expansionismo em direção ao sul. Declara o ar-

ticulista que o Japão está na iminência de afrontar uma super-crise na Ásia Oriental, de tal amplitude que o seu resultado poderá alterar completamente o curso da evolução asiática.

O comentarista não dá nenhuma noção da natureza da referida super-crise, mas despachos procedentes de Shanghai indicam que esse fato poderá afetar o Japão a Indo-China Francesa e a Tailândia.

A imprensa local informa que os residentes russos desta Capital, cujo número é de cerca de 1.500, resolveram regressar ao seu país, em virtude da guerra.

CRISE A LESTE DA ASIA

TOKYO, 4 — (U. P.) — O jornal "Yomiuri", em seu editorial de hoje, declara que o Japão deve fazer frente no leste da Ásia, a uma crise de tal magnitude, que a decisão secreta, tomada sobre a política exterior, na conferência imperial, pode modificar todo o curso dos atuais acontecimentos, no continente asiático.

Não se explicou o que possa provocar essa crise, nem quais foram as decisões tomadas na conferência, mas, em geral, tem-se a impressão de que foi estudada, detalhadamente, a atitude do país em face da guerra russo-alemã e todos os problemas mundiais do momento, acreditando-se que os fatos falarão por si mesmos.

COMENTARIOS DOS JORNAIS

TOKYO, 3 (T. O.) — Os jornais nipônicos de hoje publicam extensos comentários sobre a declaração feita pelo ministro das Relações Exteriores, sr. Matsuoka, na qual ele afirma que "foram tomadas importantes decisões políticas para o Império". O jornal "Asahi Shimbun" informa que o povo japonês se acha profundamente comovedido da importância das declarações formuladas pelo ministro Matsuoka, e que a nação, com grande entusiasmo, se manifesta inteiramente disposta a prosseguir na política de seu governo". Os referidos jornais insistem na necessidade de fortalecer a estrutura nacional.

DECLARAÇÃO DE IMPORTANCIA TRANSCENDENTAL

BERLIM, 3 (T. O.) — Referindo-se à declaração do primeiro ministro Konoye, sobre a atitude japonesa no atual momento, os círculos competentes alemães expressam que o príncipe Konoye definiu, clara e concisamente, a norma da política japonesa, tendo sido sua declaração de importância transcendental.

O príncipe usou da frase "por ordem do Tennô" e, em vista disso, os conhecedores da vida japonesa compreendem que se trata de solene e importante decisão, que imprimirá caráter definitivo à política internacional do Japão.

O porta-voz de Wilhelmstrasse não quis prognosticar qual seria a atitude do Japão no Pacífico.

Comunicado de guerra alemão

A violenta ofensiva em todas as frentes — O que informam os russos

BERLIM, 3 (D.) — Comunicado do comando alemão expedido hoje de manhã:

1.º — As tropas rumeno-germânicas que marcham da região norte de Mordahi rechaçaram as tropas soviéticas acampadas nas regiões do rio Jilto. Avançam atualmente em direção ao rio Dniester;

2.º — As tropas do "eixo" investem violentas ofensivas em toda longa frente que vai do Mar Branco ao Mar Negro. As forças soviéticas procuram proteger as suas fronteiras, mas não podendo suportar o avanço germânico, retiram-se em todos os setores;

3.º — Já está quase terminada a batalha de conquista no norte de Bialystock.

A SITUAÇÃO DAS OPERAÇÕES NA FRENTE CENTRAL, SEGUNDO OS SOVIETS

MOSCOU, 3 (D.) — Segundo informações aqui colhidas é a seguinte a situação da guerra teuto-soviética:

1.º — Na noite de ontem as tropas soviéticas combateram as forças inimigas nas regiões de Borizov, Sbaraju e Tarnobol;

2.º — As tropas avançadas alemãs das regiões de Borizov

tentaram, por várias vezes, atravessar o rio Beresina, mas devido aos ataques das forças soviéticas não conseguiram o seu intento.

Chungking deve imitar Washington

A opinião de um financista norte-americano sobre a situação econômica daquele governo

SHANGHAI, 4 (D.) — Correspondência especial do "Asahi" — Segundo informações aqui re-

RETIRA-SE O EMBAIXADOR ALEMÃO EM MOSCOU

STAMBUL, 4 (U. P.) — Chegaram à fronteira turca o embaixador alemão junto ao governo russo, Von Der Schulenburg, e o pessoal da embaixada.

O representante diplomático do Reich se dirigirá para esta cidade, viajando em automovel.

Os Estados Unidos ocupariam a Islandia

WASHINGTON, 3 (D.) — O senador Wheeler, democrata, fez hoje as seguintes declarações afirmando estar informado de que os Estados Unidos estão se preparando para desembarcar forças na Islandia:

"Estou informado de que o governo dos Estados Unidos está preparando a remessa de forças armadas, navios e aviões para ocupar a Islandia. A ocupação dessa ilha processar-se-á pelos dias 23 ou 24 do corrente. As forças americanas auxiliarão as tropas inglesas da ilha. Tenho informações de que o governo americano deseja ocupar a ilha para que seus navios transportem mercadorias destinadas à Inglaterra até lá, onde seriam transferidas para navios ingleses".

Chihtsun violentamente bombardeada pela aviação japonesa

De uma base da Indochina, 4 (D.) — As forças aéreas japonesas que estão realizando bombardeios, atacaram inesperadamente, ontem, a cidade industrial de Chihtsun, na província de Yunnan. Os aparelhos japoneses bombardearam intensa-

mente grande depósitos de material e a grande fábrica de estanho — um dos orgulhos de inimigo — em mergulhos rápidos e tremendos

O inimigo respondeu com fogo de terra, mas os aviões nipônicos lançaram bombas certeras que incendiaram mais de 40 fábricas. A seguir, os aparelhos japoneses dirigiram-se a Mengtze, onde lançaram cartazes, que causaram enorme sensação na região.

O GOVERNO DO IRAN NÃO PERMITIRÁ À PASSAGEM DE TROPAS ANGLO-SOVIÉTICAS POR SEU TERRITÓRIO

ROMA, 4 (D.) — Após o advento da guerra teuto-soviética, as ações dos governos anglo-soviéticos junto ao governo de

Iran tornaram-se sobremaneira ativas. Segundo telegramas do enviado especial do "Il Messaggero" em Teheran, os governos

da Inglaterra e U. R. S. S. solicitaram ao governo de Iran a permissão para a passagem de suas tropas por aquele território, mas ao que consta do mesmo despacho telegráfico, aquele governo negou ao pedido teuto-ingles, dizendo querer manter a sua neutralidade.

Novos membros da Academia Imperial de Artes

TOKYO, 4 (D.) — A Academia Imperial de Artes realizou no mês de Maio passado a sua segunda assembleia geral, tendo sido escolhidos nessa sessão os membros suplentes dessa organização. Com a devida autorização do Ministério da Educação foram hoje publicados oficialmente os nomes dos novos sócios.

São os seguintes os novos sócios:

Tôson Shimazaki e Hakuchô Masamune, que por ocasião da fundação da academia negaram a inscrição de seus nomes como sócios, Yûzô Yamamoto, Naoka Higa, Utuzô Kubota, Hakushû Kitahara, Mango Kobayachi, Tsuguharu Fujita e a sra. Shôen Kamimura. Como representante dos círculos artísticos industriais foi escolhido o sr. Sisui Rokukaku.

O ministro Matsuoka no Palácio

TOKYO, 4 (D.) — O sr. Matsuoka, ministro do Exterior, foi recebido hoje à tarde, em audiência, por S. M. o Imperador.

O titular do Exterior apresentou a S. M. um minucioso relato das questões diplomáticas e respondeu às perguntas de S. M.

Mensagem de saudação do presidente Getúlio Vargas ao governo e povo dos Estados Unidos

Irradiada através das 123 estações da C. B. S. — A declaração do presidente Franklin Roosevelt sobre o "Dia da Independência" — Na Inglaterra a data foi comemorada como festividade nacional

RIO, 3 (A. N.) — Através das 123 estações da Columbia Broadcasting System, será hoje irradiada nos Estados Unidos uma mensagem de saudação ao Governo e ao povo norte-americano, escrita especialmente pelo Presidente Getúlio Vargas para a data de hoje, em que se comemora a independência da América do Norte.

dação do Presidente do Brasil aos Estados Unidos, encerrando, dessa forma, a transmissão da hora oficial de rádio. Na primeira parte da "Hora do Brasil" serão apresentados números típicos de música norte-americana, executados por um grupo de artistas dos Estados Unidos, ora em nossa Capital.

17 horas e, a seguir, retransmitido ao mundo inteiro em seis idiomas. A peça oratória é um resumo da resolução do governo de defender a todo o custo as quatro liberdades fundamentais, que o presidente declarou componentes da pedra fundamental do sistema norte-americano.

lacionistas e voltará a expor a determinação dos Estados Unidos de converter o país em um arsenal para as democracias beligerantes.

Presídio de Mulheres

Considerações do penalista dr. Basileu Garcia a respeito do projeto apresentado ao Departamento Administrativo do Estado

O dr. Cirilo Junior, conselheiro do Departamento Administrativo do Estado, apresentou a consideração dessa entidade um parecer a respeito do projeto de decreto-lei que cria, subordinado à Penitenciária do Estado, um presídio destinado a mulheres condenadas por sentença passada em julgamento. O parecer conclui pela recomendação de que o projeto seja aprovado, adotadas as emendas sugeridas.

isso com grande detrimento das no tocante à realização dos objetivos da pena. "Mas não é só, — prosseguiu o nosso entrevistado. — Uma séria consequência tem resultado dessa situação de desigualdade. Excluídas do regime penitenciário propriamente dito, as mulheres que cumprem pena nas cadeias públicas tem permanecido afastadas da fiscalização que torna possível ao Conselho Penitenciário opinar acerca do aproveitamento da pena e da regeneração, bem como, em consequência, a respeito da conveniência da concessão do livramento condicional. Sem o parecer do Conselho Penitenciário, conforme expressamente determina a lei, não é possível a concessão do livramento. Em muitos casos deixaram de ser deferidos pedidos de livramento condicional formulados por mulheres, em consequência de tal fato".

lista que nos falava, — será possível ao governo realizar a utilíssima medida quasi que sem despesa, pois o presídio de mulheres ficará sujeito à administração da nossa modelar penitenciária. Diversos escritores, quando estudam a matéria dos presídios para mulheres, salientam a conveniência de serem construídos em local inteiramente separado daquele em que se situem os presídios para homens. Razões intuitivas revelam a procedência dessa forma de encarar o assunto. Entretanto, — ponderou o nosso interlocutor, — a nossa Penitenciária está localizada numa área extraordinariamente considerável, o que permitirá estabelecer-se, mesmo com a unidade de administração, a absoluta separação necessária".

A política externa da Argentina

Interpelação do Senado — Aprovação dos acordos de Havana

BUENOS AIRES, 3 — O Senado Argentino resolveu chamar o ministro das Relações Exteriores para explicações sobre a posição do país nas negociações internacionais. "Que métodos o país adotou e pôs em prática relativos aos acordos assinados na conferência inter-americana de Havana?" — é uma das perguntas que o ministro deverá responder ao se apresentar no Senado em 17 de Julho. A ação do Senado, que é controlado pelo Partido Conservador do presidente em exercício Ramon Castillo, cuja política de "estricta neutralidade" está sendo seguida na Argentina, veio depois de dois dias de rejeitada uma ação imediata referente à proposta do Uruguai de abrir os portos americanos a qualquer país do continente que esteja em guerra com uma potência extra-continental. A rejeição foi em geral comentada pela imprensa de Buenos Aires, tendo o novo chefe do Partido Conservador declarado ser necessária a adesão "até ao sacrifício" à solidariedade do hemisfério. Ademais, os Estados Unidos, na nota ontem enviada ao governo do Uruguai, aprovam integralmente a proposta, pedindo que as outras repúblicas adiram para que a proposta se torne medida. A exigência de um esclarecimento sobre a posição da nação foi feita pelos elementos liberais da Câmara. Os membros deste partido tem apolado uma aliança

mais estreita da Argentina com os Estados Unidos nos esforços em prol da defesa comum. Durante os breves debates realizados antes do voto de hoje, foram feitas referências ao discurso inaugural do presidente em exercício Ramon Castillo, que, falou "de simples neutralidade, uma palavra vazia e sem senso no século que vivemos". O Senado ademais aprovou nesta semana os acordos de Havana.

Faleceu o conhecido industrial Henrique Lage

RIO, 2 — A sociedade brasileira acaba de sofrer um rude golpe com o falecimento ocorrido, esta noite do conhecido industrial Henrique Lage, figura de projeção nos meios industriais do país.

obras que ficam como atestado do seu admirável espírito empreendedor. A sua ação, porém fez-se sentir mais acentuadamente nos trabalhos em prol do desenvolvimento da indústria dos transportes, dos quais é magnífica realização a Companhia de Navegação Costeira, que se desenvolveu a ponto de ser a perfeita organização que hoje é, sob sua imediata orientação.

As suas atividades não se limitavam apenas à administração de sua importante empresa, mas se fizeram também sentir em outros setores da vida nacional, manifestando-se sempre nela acima do proveito pessoal, e batendo-se por finalidades superiores relativamente à vida do país. Deve-se-lhe a realização de

Mereceu, também a sua atenção, a aviação comercial, pela qual desenvolveu grande atividade, fundando a primeira fábrica de aviões do país. Recentemente oferecera ao governo um aeroplano, e, neste momento, construa uma série de cem, de acordo com programa oficial. Durante o tempo em que foi deputado pelo Distrito Federal, cooperou, sempre, nos trabalhos das comissões técnicas da Câmara, principalmente no setor da vida industrial do país. O sr. Henrique Lage há tempo estava doente, vítima de grave enfermidade. A sua cabeceira mantiveram-se em ininterrupta assistência os médicos Magalhães Gomes, Benedito de Moraes e Mario Jorge, que acompanharam o desenrolar de sua enfermidade. No momento em que ocorreu o desenlace encontravam-se no apartamento do sr. Henrique Lage diversas pessoas de sua família, os médicos assistentes e alguns de seus auxiliares mais diretos, além do prof. Waldort, que chegara da Argentina afim de participar da conferência médica. O enterro do sr. Henrique Lage realizar-se-á, amanhã, às 16 horas. Sairá o féretro da residência do extinto, à rua Jardim Botânico, 414, para o Cemitério de São João Batista. O sr. Henrique Lage deixa viúva e sra. Benzanoni Lage

É de 9 milhões e 660 mil sacas a quota de exportação do café brasileiro para os EE. UU.

A quota de exportação do café brasileiro para os Estados Unidos no período de 1.º de Outubro do corrente ano a 30 de Setembro de 1942 é de 9 milhões e 660 mil sacas. Dividindo-se essa quota segundo os portos temos: Santos 7.000.000 de sacas Rio 1.100.000 " Vitória 600.000 "

Chamado à fala por um submarino germânico o vapor "Siqueira Campos"

LISBOA, 3 (U. P.) — O diário "Novidades" informa que o vapor brasileiro "Siqueira Campos" chegou hoje ao Tejo, foi intimado por um submarino alemão de grande tonelagem que se achava a uma milha de distância do barco, quando navegava pelo Atlântico no dia 23 de Junho último. Como o "Siqueira Campos" não atendeu aos sinais, o submarino disparou imediatamente duas granadas que explodiram

Novo ministro chinês junto ao governo da Austrália

SHANGHAI, 4 (D.) — Segundo telegramas procedentes de Chungking, o governo de Chungking, visando o incentivo das relações políticas com a Austrália, nomeou o sub-chefe da seção política do Departamento dos Negócios Exteriores para ministro junto ao governo da Austrália. Para o cargo de sub-chefe da seção política, agora vago, foi nomeado o antigo sub-chefe do Departamento dos Negócios Ex-

Construído um porto militar em Singapura

NOVA YORK, 3 (D.) — Segundo telegramas do enviado especial da "Associated Press" em Singapura, os poderes navais informaram que já foram terminadas as obras de construção de um porto militar em Singapura. Consta ainda que o novo porto possui instalações destinadas à reparação e ao camuflagem dos navios ingleses e seus atuais e futuros aliados.

Os embaixadores da Inglaterra e Rússia conferenciaram com o sr. Welles

WASHINGTON, 4 (U. P.) — Os observadores competentes desta capital externam sua opinião de que, na conferência que mantiveram ontem o sub-secretário de Estado, sr. Sumner Welles e os embaixadores da Inglaterra e Rússia, foi aventada a questão do auxílio aos soviéticos. O sr. Sumner Welles conferenciou primeiro com o diplomata russo, sr. Constantine Oumansky. Pouco mais tarde, foi solicitada a presença do visconde de Halifax, tendo, então, os três estadistas conferenciado pelo espaço de uma hora.

Tropas de Vichy concentradas em Salonica

CAIRO, (U. P.) — Urgente. — Sobre-se, em fonte autorizada, que numerosos contingentes de tropas de Vichy se acham concentrados em Salonica, de onde tentarão seguir para a Síria, por via marítima

Fechamento dos consulados norte-americanos da Dinamarca

COPENHAGUE, 3 (D.) — O governo da Dinamarca comunicou ao governo dos EE. UU. sobre o fechamento dos consulados norte-americanos existentes no seu país.

Fiscalização rigorosa dos navios japoneses que deixaram as Filipinas

MANILHA, 3 (D.) — A Alfândega das Ilhas Filipinas expediu um comunicado oficial, segundo o qual os poderes filipinos procederiam a um rigoroso exame a um navio japonês que vai deixar hoje um porto filipino. Segundo consta, essa medida visa impedir irregularidades na tela de controle da exportação.

Teria sido ordenado o regresso dos navios japoneses aos portos do país

Anuncia-se que os EE. UU. fecharam o canal do Panamá

MANILHA, 5 — Correm rumores nesta capital de que o governo japonês chamou todos os navios nipônicos que se encontravam em águas das Ilhas Filipinas. As versões correntes ampliam ainda a extensão dessa medida, que teria sido tomada pelo Japão, adiantando-se que a mesma alcançava os navios japoneses em todos os mares. No entanto, um rádio de Nova York diz que não foi possível obter confirmação para tais versões.

NOVA YORK, 3 — Não foram confirmados em Washington os rumores de que o governo japonês ordenou a todos os navios nipônicos que navegassem imediatamente para seus portos no Japão.

O CANAL DO PANAMÁ TERIA SIDO FECHADO AOS NAVIOS NIPONICOS

NOVA YORK, 3 — Notícias ainda não confirmadas circulam aqui com referência ao fechamento do Canal do Panamá, aos navios japoneses por ordem do governo americano.

Anúncios eficientes? Só no "BRASIL ASAHÍ", jornal de maior circulação da Colúmbia Nipônica. Tel: 7-3326

A nacionalização do ensino no Rio G. do Sul

Palavras do secretário da Educação daquele Estado sobre a eficiência do ensino nacional nas zonas coloniais

PORTO ALEGRE, 2 (A. N.) — O Secretário da Educação acaba de realizar uma excursão por vários municípios da região colonial, inspecionando diversos estabelecimentos de ensino e obras dos nossos edifícios escolares em construção mandados erguer pelo Governo do Estado.

“Os pessimistas que percorrem o Interior do Estado terão motivo de decepção, porque dentro de alguns anos não terão mais o prazer amargo de dizer que o Brasil é um país de alfabetos. E' auspicioso verificar-se como a instrução primária — que é o instrumento da educação popular — alastra-se pela zona rural, graças à ação do Estado e dos Municípios”.

Referindo-se ao problema da nacionalização e a seus resultados, disse: “E' já um pensamento comum dizer-se que a educação é um grande instrumento de nacionalização, no sentido político do termo. Pela chamada “região colonial” do Estado, pode-se verificar a procedência axiomática desse conceito. Na região ocupada pelos colonos peninsulares, velhos dirigem-se aos netos em italiano, e estes respondem em português. Na região habitada pelos descendentes de colonos teutos, nas estradas os pais saudam os viajantes em alemão e os filhos em português. Assim, a tentativa desagregadora dos agentes imperialistas, ação dissolvente dos elementos extremistas, a que se referiu o Chefe da Nação em sua recente entrevista à imprensa de Buenos Aires, está anulada em bem da unidade espiritual da nacionalidade”.

Prosegue com grande sucesso a campanha encetada pela Secretaria da Agricultura, que tem por finalidade o barateamento das frutas nacionais. O fechamento do mercado europeu provocou a retenção, no país, de grande quantidade de frutas, entre elas laranjas e bananas; devido a isso, os preços caíram a níveis baixíssimos nos centros de produção.

Campanha pró-barateamento de frutas nacionais

A útil iniciativa da Secretaria da Agricultura

Qualquer pessoa, portanto, poderá dedicar-se livremente à venda ambulante de frutas nacionais. Bastará, para tanto, que se registre no escritório que a Secretaria da Agricultura mantém aberto para esse fim, à Rua Almeida Lima, 14, fundos — Imigração.

Recomenda-se aos interessados apresentarem-se munidos de duas fotografias. Os proprietários de caminhões, carroças, carrocinhas, além de um cartão de identidade e um distintivo que deverão trazer sempre consigo, — quando no exercício do comércio de frutas nacionais — deverão também trazer no seu veículo uma faixa com os dizeres: SECRETARIA DA AGRICULTURA.

Essas faixas numeradas, podem ser adquiridas no escritório da Secretaria da Agricultura, sito à rua Almeida Lima, 14. Grande número de proprietários de caminhões, carroças, carrocinhas, e vendedores ambulantes, já se inscreveram. Para se fazer uma idéia das finalidades dessa campanha basta dizer que as bananas, normalmente vendidas no mercado ao preço de \$500 a \$1000 o cacho, vinham sendo vendidas pelos ambulantes, até a \$500 a dúzia.

Em resumo, a situação era a seguinte: grandes sobras de bananas e laranjas nos centros de produção e preços altos na porta do consumidor. No sentido, pois, de solucionar diferentemente essa questão, foi que o Governo do Estado resolveu, em boa hora, permitir o comércio livre de frutas nacionais.

Essas faixas numeradas, podem ser adquiridas no escritório da Secretaria da Agricultura, sito à rua Almeida Lima, 14. Grande número de proprietários de caminhões, carroças, carrocinhas, e vendedores ambulantes, já se inscreveram.

Para se fazer uma idéia das finalidades dessa campanha basta dizer que as bananas, normalmente vendidas no mercado ao preço de \$500 a \$1000 o cacho, vinham sendo vendidas pelos ambulantes, até a \$500 a dúzia. Ora, um cacho de bananas tem, em média, 10-12 dúzias de bananas.

O ladrão não teve sorte...

Ao assaltar a residência da condessa Lara ficou preso sob o cofre que pretendia arrombar — Dois outros assaltantes conseguiram fugir

A guarnição do R. P. 48, em serviço no Jardim América, dia 2, às 23 horas, teve oportunidade de correr para o prédio 151 da rua Bolívia, residência da condessa Lara, cuja família se acha ausente da capital. Do interior desse prédio partiam gritos aflitivos de socorro. A voz era de um homem. Os vizinhos da condessa Lara ouviam esses gritos e pediram o socorro policial que não demorou. A guarnição da R. P. 48 seguiu-se o comparecimento do carro 57, rondante da referida zona que sob a direção do sub-inspetor Chagas e do classe distinta Gonzaga imediatamente tomaram as primeiras providências afim de averiguar quem era a pessoa que gritava. A criadagem da casa que dormia em um cômodo situado nos fundos do prédio, não ouvia os gritos. Como a situação se agravasse por não aparecer ninguém que abrisse a casa, a guarnição da Rádio Patrulha entrou no prédio. Entretanto, era dado aviso ao delegado de plantão na Central, seguindo para a rua Bolívia o sub-delegado Jaime de Souza Ramos.

Logo que foram acedidas as luzes pelas empregadas da casa que acudiram aos instantes chamados dos guardas da R. P. 48, os policiais percorreram todas as dependências do prédio. E subindo ao primeiro andar, no dormitório da condessa, depararam com uma cena inédita nos annis do crime.

Um homem, positivamente, um ladrão, pardo, mal trajado, pedia socorro por estar preso sob o cofre que pretendia arrombar. Tinha ele os pés e parte das pernas sob o pesado móvel e não podia fazer qualquer movimento para se livrar de tão incômoda posição.

Ao rápido exame feito no local observava-se com facilidade que o ladrão não tivera muita sorte. O cofre, ao cair de frente para o chão prendera os pés e as pernas do ladrão mas a maçaneta da porta, por um lado, e os saltos dos sapatos que ele “caçava por outro, evitaram o esmagamento desses membros.

A reportagem foi ao local, tendo oportunidade de fotografar o ladrão preso pelo cofre que fora roubado. O assaltante da casa da condessa Lara estava muito nervoso quando o repórter lhe perguntou a identidade, mas disse que não sentia outras dores senão as provocadas pela inatividade forçada dos pés e pernas. Ao informar sua identidade disse que se chamava Valdomiro Alves, ser pintor, ter 28 anos, solteiro, e residir à rua Itabupuan, 65. Todavia, a polícia encontrou no bolso do seu casaco uma carteira profissional com o nome de Inácio Arruda. A verdadeira identidade do ladrão será esclarecida hoje pela delegacia de Roubos à qual o caso ficou afeto.

Inácio Arruda ou Valdomiro Alves disse ainda que os assaltantes eram três, um ele, e que os outros tinham conseguido fugir, levando as ferramentas com que iam arrombar o cofre. Os ladrões já tinham desligado o fio elétrico de um “abajour” para, na tomada respectiva ligar o fio do “maçarioco” e iniciar o trabalho de cortar a parede da trazeira do cofre.

Em vista do crescente desenvolvimento do ensino das línguas estrangeiras vem tendo em São Paulo, a reportagem da “Folha da Noite” colheu, há dias, as seguintes interessantes informações: Dirigindo-se, primeiramente, à Sociedade Brasileira de Cultura Inglesa o sr. Roberto Weale, informou que o curso de língua e literatura inglesa, mantido pela mencionada entidade funciona desde 1935. Durante o ano passado, segundo nos foi dado verificar, o curso da Sociedade Brasileira de Cultura Inglesa foi o mais frequentado entre os outros cursos de línguas estrangeiras, o que vem demonstrar que o idioma bretão é o preferido pela massa desejosa de ampliar os seus conhecimentos etiológicos. O número de alunos inscritos elevou-se a 1.870, dos quais, entretanto, apenas cerca de 1.600 compareceram regularmente às aulas. Sessenta por cento desses alunos eram brasileiros. A maioria dos restantes era constituída de alemães. O curso é de seis anos, dividindo-se em quatro de língua e dois de literatura.

NO ALIANÇA FRANCESA Na sede da Aliança Francesa foram atendidos pelo sr. Robert de Grève, e informados ser a “Alliance Française” uma organização mundial. Fundada em 1883, tem representações em quasi todos os países do mundo. No Brasil, funciona nos Estados de São Paulo, Espírito Santo, Bahia, Rio de Janeiro e Paraná. O curso de língua e literatura francesas, que é de cinco anos, foi aberto nesta capital em 1934. As aulas são diárias incluindo conversação e debates.

NO GLEMIO CULTURAL BRASILEIRO-NIPONICO A reportagem da “Folha” procurou, em seguida, a sede do Grémio Cultural Brasileiro-Nipônico, palestrando ali com o sr. Durval C. de Castro e Silva. Há três anos — declarou s. s. — o Grémio Cultural Brasileiro-Nipônico mantém este curso de língua japonesa, que é dirigido pelo antigo embaixador Shigetsuna Furuya e pelos srs. Kiyoshi Ando e Paulo Morita. O primei-

ro leciona literatura e os dois últimos são professores de idioma japonês. Em conversa com esses professores, soube-se que o curso é teórico e prático. Ao que disse, ainda, três são os caracteres principais do alfabeto nipônico: o “kangi”, originariamente, o “katakana” e o “hiragana”. O número de sinais que se compõem os destes dois últimos conjuntos é de 48. O “kangi”, entretanto é formado por mais de mil caracteres. Cada japonês conhece, em média mil desses sinais. Os alunos mais adiantados do curso conhecem aproximadamente 500 dos referidos sinais, o que lhes permite escrever, falar e entender o japonês. O curso possui 80 alunos, 70 dos quais são brasileiros.

OUTROS CURSOS Além dos mencionados cursos de idiomas estrangeiros, outros existem ainda nesta Capital. Embora com reduzido número de alunos. Mencionaremos dois: o de esperanto e o de grego, cada um com uma aula por semana.

O ensino das línguas estrangeiras em S. Paulo

O inglês, o francês e o italiano — Declarações do sr. Durval de Castro e Silva, sobre o ensino da língua japonesa

Realizações urbanísticas em São Paulo

Aplausos do engenheiro Alfredo Agache, à obra do prefeito Prestes Maia

O professor Alfredo Agache é uma brilhante figura de artista e homem de ciência com que o nosso público já está muito familiarizado. Reside há muito tempo entre nós, ora em S. Paulo, ora no Rio de Janeiro, sempre em atividade ligada à sua profissão de engenheiro urbanista. Como tal se tornou, realmente, uma autoridade, havendo feito transformações urbanísticas em Paris, Dunkerque, Chicago e muitas outras cidades. No Brasil já se fez sentir sua influência em grandes realizações urbanas levadas a efeito na Capital Federal e em São Paulo. E' essa interessante personalidade de transformador de cidades que a Agência Nacional mandou ouvir, a respeito da remodelação urbanística por que passa esta capital, sob a orientação do prefeito Prestes Maia. Disse-nos o professor Agache: — “Aplaudo entusiasmadamente o que o prefeito Prestes Maia está fazendo em São Paulo. O que me impressiona, principalmente, nesta capital, é a continuidade das realizações, dos estudos, do trabalho entregue aos técnicos. E' graças a isso que São Paulo pode tomar um aspecto inteiramente novo, que fez da cidade uma grande capital. “Comparo São Paulo a Chicago, que visitei há quarenta anos, — prosseguiu o nosso entrevistado. — Pareceu-me então, essa cidade norte-americana um ver-

dadeiro caos. Era uma aglomeração de casas sem caráter nenhum. Quando a visitei vinte e cinco anos depois, os trabalhos urbanísticos haviam transformado o caos numa cidade organizada. “Em São Paulo estive pela primeira vez em 1927. Tive idéntica impressão: uma cidade transbordante de atividade, mas inteiramente inorgânica. Hoje, constato com grande prazer a transformação que se está fazendo e que, como urbanista, aprovo totalmente. “Pouco a pouco, — acrescentou o ilustre engenheiro que nos falava, — esta cidade informede há quarenta anos toma uma fisionomia definitiva. “Existe ainda grandes problemas a resolver, sobretudo no que concerne ao tráfego que será melhorado quando se dispuser de um serviço metropolitano, como em Paris ou Nova York e todas as grandes cidades. “Sinto-me feliz por ver uma cidade cheia de dinamismo como esta, — disse ainda o nosso interlocutor, — entrar numa fase de caráter monumental como é a presente”. Concluindo, o professor Agache declarou que outra coisa o entusiasmava entre os paulistas: o grande espírito de iniciativa individual, que agora, — frisou ele, — está encontrando da parte do governo nacional o apoio que merece.

rimenteu, nada menos de 79 espécies de vegetais do mato, para descobrir novas plantas comestíveis. Durante todas essas experiências, o sr. Koda que conta 79 anos de idade nada sofreu.

O Departamento Social do governo de Hokaidô, Japão, resolveu instituir um curso de ensino agrícola para os “ainus”, que são refratários à vida agrícola.

Infortunio

5-VII-1941 O Simpei queria que o cronista escrevesse sobre o homem que, outro dia, tentando arrombar um cofre numa certa residência, por um fenômeno qualquer se viu preso, irremediavelmente preso, debaixo do tal de cofre. Ele disse que a crônica teria que necessariamente agradar porque o fato era bastante atraente, dadas as condições em que foi encontrado o infortunado ladrão, — sossegadamente deitado no assoalho, de barriga para cima, as mãos na nuca, servindo como que de travessão, os pés cobertos pelo cofre..., os bolsos pobremente vastos... Ele disse mais, que o homem devia estar se lastimando, porque, conquanto “coberto por diabinho”, nem tocar não podia... Mas, que alegria não seria para ele e os de sua companhia se fosse bem sucedido! A sorte ficara para outra vez... O cronista não achou a sugestão boa, por isso que resolveu escrever o que escreveu, para a crônica de hoje. —

A esposa do campeão mundial de box Joe Louis quer divorciar-se

NOVA YORK, 3 (T. O.) — A esposa do campeão mundial de todos os pesos, Joe Louis, solicitou divórcio, ontem, alegando para isso, máis tratos que lhe foram infringidos pelo conhecido “demolidor”. A primeira vez em que foi maltratada fisicamente, pelo marido, teve lugar em 2 de Janeiro e, a segunda em 19 de Abril, quando deixaram de viver em comum. Joe Louis casara-se em 24 de Setembro de 1935, sem que até agora haja filhos do casal.

Luta de longa duração

(Fatos diversos)

Alguns exportadores de algodão, estão exportando algodão para o Japão, via Estados Unidos, em vista da falta de navios japoneses. Entretanto segundo uma informação por nós recebida, há falta de praça marítima mesmo na linha nipo-norte-americana. O dr. Y. Otsuka, com clínica em Bandeirantes, Norte do Paraná, adquiriu aparelhos de Raio X e outros aparelhos para o seu consultório. O ancião Kennoske Koda, da província de Chiba, Japão, expe-

A situação economico-financeira do Estado de S. Paulo examinada pelo sr. Secretário da Fazenda

O DR. CORIOLANO DE GOES FAZ DETALHADA EXPOSIÇÃO DAS CONDIÇÕES EM QUE ENCONTROU A FAZENDA PÚBLICA — O TOTAL DA DIVIDA DE S. PAULO É DE 5.818.786.845\$300

O dr. Coriolano de Góes, secretário da Fazenda de São Paulo, concedeu, dia 2, à tarde, uma entrevista coletiva à imprensa. Na palestra que manteve com os representantes dos jornais da capital, s. excia. expôs a verdadeira situação do Tesouro do Estado.

Disse, de início o dr. Coriolano de Góes:

— "Era meu intuito falar à imprensa logo após haver entrado no exercício do cargo, para o qual fui designado pelo ilustre interventor Fernando Costa, sobre a situação financeira do Estado.

— Duas viagens ao Rio entre tanto, onde por determinação do chefe do governo de São Paulo fui tratar de assuntos ligados à política econômica e financeira do Estado, impediram-me de fazê-lo imediatamente.

Decorridos vinte dias, procurei reunir-me de dados e informações, fornecidos pela Contadoria Central do Tesouro, achando-me, só agora, em condições de explicar ao público a exata situação das nossas finanças. E essa explicação se torna necessária em face das recentes declarações do eminente interventor Fernando Costa, que traz para o governo um programa de rigorosa compressão de despesas, programa esse decorrente das consequências do estado atual dos cofres públicos".

A DIVIDA DO ESTADO

Em face dessa declaração, perguntamos ao dr. Coriolano Góes qual a situação do Tesouro do Estado.

A essa indagação ponderou s. excia.:

— "Vou resumir. A dívida total do Estado, em 31 de Dezembro de 1940, ascendia a réis 5.818.786.845\$300, tendo, Divida Fundada:

a) Externa (ao câmbio atual): 2.823.162.029\$700.

b) Interna (inclusive de obrigações de café): — 1.534.019.660\$000.

Divida Flutuante: 1.461.605.155\$300, num total de 5.818.786.845\$300.

Neste total figura a dívida proveniente das operações de defesa do café, cuja soma é de 1.036.930.548\$200, resultando daí a diferença de 4.781.856.100\$, que terá de ser atendida com os recursos ordinários.

Para fazer face à dívida originada da defesa do café, o Estado tem à sua disposição 50 por cento da taxa de 12\$000 por saca de café exportado e o produto do estoque de café, que garante o empréstimo de vinte milhões de esterlinos".

SITUAÇÃO DEFICITARIA

Perguntamos, em seguida, ao dr. Coriolano de Góes, a quanto atingiu, nestes últimos dez anos, o "deficit" de São Paulo.

— "Nesse período — acentuou s. excia. — o "deficit" estadual subiu a dois milhões e quatrocentos e quarenta e quatro mil contos".

Um dos jornalistas presentes pediu, a s. excia., dados explicativos referentes ao período que vai de 1939 a 1940.

Consultando o relatório da contadoria Central, disse o secretário da Fazenda:

— "Em 1939 o "deficit" foi de 201.098.786\$833; em 1939, de 214.081.693\$578, e, em 1940, de 222.096.368\$606".

O EXERCÍCIO FINANCEIRO DE 1941

— E quanto à receita do exercício de 1941? Indagou alguém.

— "Tenho em mãos um quadro demonstrativo pelo qual se verifica que a arrecadação do exercício de 1941, até ao mês de Maio, inclusive, excedeu a relativa à Receita de Combustíveis e Lubrificantes, a cargo do Conselho Nacional do Petróleo à Caça e Pesca, Fiscalização de Pro-

ductos Cítricos e Departamento Nacional do Café, cujos dados ainda não foram enviados à Secretaria da Fazenda, foi de 18.286.876\$600, mais do que a prevista. Em confronto com o de 1940, o exercício de 1941 já apresenta uma diferença, para mais, de 34.277.444\$200".

— O orçamento da receita em 1941, foi previsto por v. excia.?

— "Posso afirmar que a previsão da receita, para 1941, me-receu de minha parte um estudo metódico, durante várias reuniões que presidi com a participação dos técnicos fazendários.

Verificamos hoje, com satisfação, que, ao invés de termos insuficiência na arrecadação como vinha acontecendo, o Departamento da Receita constatou a diferença a mais, acima apontada".

— E qual a previsão da receita em 1941?

— "Tomando por base a arrecadação provável de Junho a Dezembro de 1941, de acordo com os pareceres dos técnicos da Contadoria, a Receita de 1941 será de 869.548\$400, excluindo-se dos serviços de estradas de ferro e incluindo-se a quota parte de 8\$ da taxa sobre o café exportado. Comparada a arrecadação prevista no orçamento, haverá um acréscimo de 43.647.063\$000".

— E quanto ao "deficit"?

— "Tomando-se por base a receita provável, a despesa orçamentária fixada, prevendo-se a abertura de créditos adicionais e deduzindo-se as economias prováveis, o "deficit" do mês, na importância de 200 mil contos, presente exercício se elevará a quase duzentos mil contos".

— E a soma dos créditos adicionais?

Consultando novamente as informações prestadas pela Contadoria Central, disse o dr. Coriolano de Góes:

— "Em 1938, esses créditos subiram a 150.733.938\$300; em 1939 a 164.536.724\$800 e, em 1940, atingiram a importância de 295.506.133\$900, tudo num total de 610.778.347\$000.

— Em 1941, foram abertos novos créditos?

— "No presente exercício — declarou s. excia. — foram abertos créditos no total de 74.802.155\$200, sendo 71.368.405\$200 de créditos transferidos de 1940 para o atual exercício financeiro, e 3.433.750\$000, de créditos novos, abertos até o dia 5 de Junho".

Referindo-se aos créditos em andamento, disse s. excia.:

— "Encontrei pedidos de créditos adicionais em andamento, com a responsabilidade da administração passada, na importância de 109.994.053\$600".

O SALDO EM CAIXA NO TESOUREIRO

Formulamos outra pergunta ao dr. Coriolano de Góes. Tratava-se de conhecer o saldo em caixa no Tesouro.

S. excia. respondeu:

— "A posição da Caixa do Tesouro, no dia 5 de Junho deste ano, apresentava disponibilidade

de 16.453.142\$200, e encargos de 7.197.182\$400, resultando um saldo de 9.255.959\$800, que desaparece com os saques contra o Banco do Estado, a descoberto, na importância de 64.121.702\$000.

Aliás, o débito total a descoberto, do Tesouro para com os Bancos, é de 103.111.115\$800, no dia 5 de Junho de 1941".

E acrescentou s. excia, em resposta à indagação de um dos nossos colegas:

— "No período que vai de 27 de Abril, de 1938 a 5 de Junho de 1941 a dívida do Estado aumentou de 726.271.654\$200".

O PANORAMA FINANCEIRO

— Mas, excluindo-se os serviços das ferrovias e a quota parte de 8\$000 da taxa de café exportado, como se apresenta o panorama financeiro?

— "Vamos por partes", — ponderou s. excia.

E prosseguiu:

— "Convém salientar que a Receita Geral para o atual exercício foi orçada em 1.018.141.488\$400, e a Despesa fixada em 1.089.078.397\$100. O "deficit" inicial se eleva, pois, a quase 71 mil contos.

Da receita geral, entretanto, devem ser excluídos os serviços de Estradas de Ferro, cuja vida administrativa é, por assim dizer, autónoma, serviços esses que atingem a 192.026.000\$000.

Feita essa dedução, concluiremos que 826.115.482\$400 deve ser o total da arrecadação prevista para o exercício de 1941.

Mas, São Paulo, no ano de 1940, arrecadou, executando-se os serviços de Estradas de Ferro, a importância de 725.337.613\$200, ou sejam mais 78 mil contos que o exercício de 1939 e menos 52 mil contos que a previsão orçamentária.

Ora, tudo faz prever que, continuando a guerra, a situação não se modifique muito para melhor.

Com otimismo e confiança na expansão sempre crescente da economia paulista, admitamos que, no presente exercício, a arrecadação atinja a 800 mil contos.

Mesmo nesta hipótese, teremos ainda uma insuficiência de arrecadação de mais de 26 mil contos, que deverá ser adicionada ao "deficit" inicial de 71 mil contos e aos créditos revigorados no presente exercício, que atingem a 71.368.405\$270.

Mas, o governo passado abriu créditos até o dia 5 de Junho que atingiram a 3.021.750\$000. Não ficou aí. Encaminhou ao Departamento Administrativo

ante-projetos, pedindo a abertura de créditos adicionais, que atingiram a 109.994.053\$600.

Admitindo-se, para argumentar, que o atual governo não abra nenhum crédito adicional, teremos a seguinte demonstração:

Despesa (sem Estradas de Ferro) 946.507.797\$100
Créditos revigorados 71.368.405\$270
Créditos abertos 3.021.750\$000
Créditos em andamento 109.994.053\$600

SOMA 1.130.892.005\$970
Arrecadação (sem Estradas de Ferro) 800.000.000\$000

"Deficit" 330.892.005\$970

Na arrecadação não figura a parcela de 60.000.000\$000, como receita da quota-parte de 8\$000, na taxa de 12\$000 sobre cada saca de café exportado, destinada ao serviço do empréstimo de 20.000.000, da defesa do café, que, aqui honestamente mencionamos e que não constitui receita ordinária e permanente do Estado.

Isso tudo, repito, admitindo-se a hipótese pouco provável de não ser aberto nenhum crédito adicional durante o presente exercício financeiro.

Convém notar que o quadro do funcionalismo foi excessivamente aumentado. Só as despesas com o pessoal fixo e variável se elevam a 456.147.437\$000 e com os serviços de Estradas de Ferro, a 523.874.137\$600. Os serviços das dívidas externas, interna fundada e flutuante, consomem, sem os créditos suplementares, 280.117.499\$000. Isso significa que funcionalismo e serviço da Dívida Pública consomem 736.263.936\$000, ou seja quase toda a arrecadação do Estado.

Inclua-se o material permanente que sobe a 66.759.260\$000. Inclua-se o material de consumo que se eleva a 108.155.524\$000. Inclua-se as despesas diversas do Estado, que sobem a 197.371.977\$100.

Considere-se que o passivo descoberto em 1939 era de 1.007.557.728\$309.

Considere-se que a dívida interna fundada é de 1.534.019.660\$000 até 31 de Maio último; que a dívida externa fundada ao câmbio atual é de 1.786.231.445\$500; que a dívida flutuante é de 1.461.605.155\$400; que o empréstimo externo do café ao

câmbio atual é de 1.036.930.584\$200; tudo num total de 5.818.786.845\$300, como já vimos.

O TOTAL DA DIVIDA DO ESTADO ATINGE A 3.665.615.085\$

Deduzindo-se 1 milhão do valor da dívida externa pelas suas cotações atuais, e o estoque de garantia em café, no valor de um milhão, teremos 3.665.615.085\$100, que poderá ser considerado o total da dívida do nosso Estado".

OPERAÇÕES — POLITICA ECONOMICA

Diante dessa situação de extrema gravidade para as finanças do Estado, que orientação adotará v. exci. na direção dos negócios da Fazenda?

— "A dívida externa já foi abatida em 200 mil contos, aproximadamente, com a aquisição dos respectivos títulos. Iniciaremos o resgate da dívida interna fundada. Neste sentido, já foram expedidas ordens à Diretoria da Dívida Pública para, ainda este ano, operar um resgate de 30 mil contos. No próximo ano consideraremos uma verba ainda maior para levarmos avante essa política de deflação.

Com o aumento da arrecadação e uma política de severa economia, pretendemos resgatar as promissórias emitidas pelo Tesouro, num total de 8 a 10 mil contos mensalmente.

De conformidade com as ordens expedidas pelo ilustre interventor federal em São Paulo, procederemos, a todo transe, a uma rigorosa compressão de despesas.

Ainda por determinação de s. excia., os pedidos de créditos adicionais, ora em trânsito no Departamento Administrativo do Estado, que ascendem a 110 mil contos, como vimos, serão remetidos a esta Secretaria, que só opinará pela sua decretação em casos excepcionais.

Já expedimos ordens rigorosas ao Departamento da Receita a fim de ser evitada a enorme evasão de rendas, que é calculada em milhares de contos, anualmente.

Ainda ontem, em reunião de todos os secretários de Estado, do chefe de polícia e do diretor do Departamento das Municipalidades, sob a presidência do sr. Interventor Fernando Costa, foram concertadas providências tendentes a serem cortadas as despesas públicas em 12 por cento, em cada Secretaria de Estado.

Teremos assim um orçamento mais ou menos equilibrado, o que constituirá o passo inicial para a normalização da situação financeira que atravessamos.

Não serão, ainda de acordo com as diretrizes do eminente dr. Fernando Costa, iniciadas outras obras sem a terminação das que se acham em andamento.

AS VAGAS NO FUNCIONALISMO

As vagas que ocorrerem no quadro do funcionalismo paulista não serão preenchidas, ou melhor, só o serão em caso de necessidade do serviço público.

CONFIANÇA EM S. PAULO

"Por outro lado acrescentou o dr. Coriolano de Góes, a expansão sempre crescente das nossas fontes produtoras irá facilitar a tarefa dos homens responsáveis pelo destino da atual administração.

Ai estão os dados bem eloquentes sobre nosso comércio internacional de cabotagem e por via terrestre, que provam exuberantemente as grandes possibilidades da nossa economia, e a extraordinária capacidade de trabalho do grande povo paulista.

Não há motivo para receios nem desânimos. As diretrizes já traçadas pelo eminente interventor federal, conduzirão em pouco tempo São Paulo aos seus gloriosos destinos, restaurando as finanças do nosso Estado.

Tenhamos coragem. Tenhamos fé".

Tabela de preços para as feiras livres a vigorar de 4 a 10 de Julho de 1941

Arroz Agulha Amarelo, Extra	Quilo	2\$000
Arroz Agulha Amarelo, Especial	"	1\$900 a 2\$000
Arroz Agulha Amarelo, Superior	"	2\$000
Arroz Agulha Amarelo, Bom	"	1\$800
Arroz Agulha Amarelo, Regular	"	1\$500 a 1\$600
Arroz Branco, Especial	"	1\$900
Arroz Branco, Superior	"	1\$700
Arroz Branco, Regular	"	1\$600
Arroz Catete, Especial	"	1\$700
Arroz Catete, Superior	"	1\$700
Arroz Catete, Bom	"	1\$600
Feijão Mulatino, Novo, Especial	"	1\$200
Feijão Mulatino, Novo, Superior	"	1\$100
Feijão Mulatino, Novo, Bom	"	1\$000
Feijão Branco Graúdo Extra	"	2\$100
Feijão Branco Miúdo	"	1\$700
Feijão Preto, Sup do Estado	"	\$800
Feijão Preto, Floresta	"	\$8100
Feijão Preto Colombina	"	\$8300
Feijão Manteiga, Novo, Superior	"	\$8400
Feijão Fradinho (Extra)	"	\$8100
Feijão Roxinho, Mineiro	"	\$8500
Feijão Roxinho, Paraná	"	\$8400
Feijão Chumbinho Opaco	"	\$8300
Feijão Chumbinho, Superior	"	\$8200
Feijão Bico de Ouro	"	\$8400
Feijão Canário, Superior	"	\$8500
Batata Holandesa, Lisa, Especial	"	\$8800
Batata Holandesa, Lisa, 1.a	"	\$8500
Batata Holandesa, Esp. (Olho Fundo)	"	\$8400 a 1\$600
Batata Hol., 1.a (Olho Fundo)	"	\$8300
Batata Hol., 2.a (Olho Fundo)	"	\$8000 a 1\$100
Batata Hol., 3.a (Olho Fundo)	"	\$800
Batata Hol., 4.a (Olho Fundo)	"	\$800
Batata Canadá, Especial	"	\$8300
Batata Canadá, 1.a	"	\$8100
Batata Alfinetada, Especial	"	\$8000
Batata Alfinetada, 1.a	"	\$800 a \$900
Batata Alfinetada, 2.a	"	\$800
Batata Alfinetada, 3.a	"	\$800
Batata Irati, 1.a	"	\$700 a \$800
Batata Deformada	"	\$800
Farinha de Mandioca, Ext. Tor. (Norte)	"	\$8100 a 1\$200
Farinha de Mandioca, Ext. Crua	"	\$800 a 1\$000
Farinha de Mandioca Boa, Ext. (Norte)	"	\$800 a \$900
Farinha de Mandioca Comum (Norte)	"	\$800
Farinha de Mandioca Boa (Rio Grande)	"	\$800 a \$900
Farinha de Mandioca Comum (Rio Grande)	"	\$700
Cebola Argentina, Especial	"	\$8900 a 4\$000
Cebola Rio Grande, 1.a	"	\$8000 a 4\$200
Cebola Mineira, 1.a	"	\$8200 a 3\$500
Alho Chileno de 1.a	Cab.	\$8300 a \$400
Alho Chileno de 2.a	"	\$8200 a \$300
Abóbora Madura	Uma	\$8000 a 2\$000
Aboborinha Italiana	"	\$8300 a \$500
Aboborinha Brasileira	"	\$8200 a \$300
Acelga Larga, Talo Branco	Maço	\$8300 a \$400
Agrião Vivaz	"	\$8500 a \$700
Aipo Salção Branco, c/2 Unidades	"	\$8600 a \$800
Alface Francesa de 1.a	Pé	\$8200 a \$300
Alface Sem Rival, 1.a	"	\$8200 a \$300
Alho Porro	"	\$8200 a \$300
Almeirão Folha Larga	Maço	\$8300 a \$400
Batata Doce	Quilo	\$8300 a \$500
Beringela Roxa Comprida	Dúzia	\$8000 a 3\$800
Beringela Giló	"	\$8300 a \$400
Beterraba Vermelha c/3 cabeç.	Maço	\$8600 a 1\$000
Cebolinha Verde Comum	"	\$8900 a 1\$100
Cenoura Comprida c/24 cabeças	"	\$8800 a 1\$600
Catalonha	"	\$8300 a \$400
Cará da Terra	Quilo	\$8600 a \$700
Chicória Amarga	Maço	\$8300 a \$400
Chicória Crespa	"	\$8300 a \$400
Chicória Lisa	"	\$8200 a \$300
Couve Brócoli Verde (Maço Grande)	"	\$8800 a 4\$600
Couve Manteiga	"	\$8300 a \$400
Couve Flor, Pé Curto	Pé	\$8800 a 1\$600
Ervilha Torta Verde	Quilo	\$8800 a 1\$700
Ervilha Branca	"	\$8200 a 1\$700
Ervilha Branca Especial	"	\$8800 a 2\$000
Escarola	Pé	\$8200 a \$300
Espinafre Nova Zelândia	Maço	\$8400 a \$500
Inhame	Quilo	\$8600 a \$700
Erva Doce c/2 cabeças	Maço	\$8600 a \$800
Mandioca	Quilo	\$8500 a \$700
Mandiocinha	"	\$8900 1\$500
Mostarda	Maço	\$8200 a \$300
Nabo Japonês c/3 cabeças	Molho	\$8500 a 1\$200
Nabo Francês c/3 cabeças	"	\$8400 a \$600
Pepino Verde, Comprido	Um	\$8300 a \$600
Pimentão, Doce Graúdo	Dúzia	\$8800 a 1\$800
Palmito de 1.a	Um	\$8200 a 2\$400
Palmito de 2.a	"	\$8200 a 1\$500
Palmito de 3.a	"	\$800 a 1\$000
Repolho Rio Grande (Repolhu-do)	Um	\$800 a 1\$400
Vagem Manteiga	Quilo	\$8400 a 2\$200
Vagem Rasteira	"	\$8000 a 1\$800
Xuxu	Dúzia	\$8600 a 2\$000
Salsa Verde Comum	Maço	\$8200 a \$300
Tomate, Redondo Vermelho, Especial	Quilo	\$8600 a 2\$000
Tomate, Redondo Vermelho, 1.a	"	\$8200 a 1\$600
Tomate, Redondo Vermelho, 2.a	"	\$800 a 1\$200
Tomate, Redondo Vermelho, 3.a	"	\$800 a \$800

BAIXARÁ O PREÇO DO ARROZ

O EFEITO DA PROIBIÇÃO DA SUA EXPORTAÇÃO

Se nós dissermos que o preço do arroz irá baixar, os leitores naturalmente ficarão muito contentes. Mas o fato é que realmente a cotação do arroz está mais fraca do que há tempos. Nestes últimos dias, o preço desse artigo subiu assustadoramente, devido às enchentes do Rio Grande do Sul e também à seca do ano passado, que reduziu muito a sua produção. Outro fator foi a aquisição de grande quantidade de arroz gaúcho, segundo consta, por alguns

negociantes, que quiseram acumular o arroz, prevendo a sua alta. Entretanto, o decreto do sr. Presidente da República, assinado a 30 de Junho, proibindo a exportação do arroz, val coibir as especulações e exploração em torno desse importante gênero de primeira necessidade. Os negociantes inescrupulosos que quiserem armazenar arroz para vender caro, terão que vendê-lo no país, pelo preço razoável.

alta exagerada do produto. Segundo nós declaramos um entendimento no assunto, a perda do arroz gaúcho em consequência das águas equivale mais ou menos à quantidade do arroz que o Brasil exporta anualmente. Assim, com a proibição da sua exportação, ficará garantido o suprimento do mercado interno. A não ser que haja especulações desonestas por parte de alguns negociantes, o arroz voltará ao preço normal.

PRIMEIRA ESCOLA DE TECELAGEM
Rua Piratinga, 283 - S. PAULO (BRAZ)
Comunicamos que os novos cursos de
TECELAGEM, FIAÇÃO E TINTURARIA
DESENHOS JACQUARD
TÉCNICO DE ADMINISTRAÇÃO TEXTIL
começarão no dia 15 de Julho de 1941
TODOS OS CURSOS TAMBEM POR CORRESPONDENCIA
MATRICULAS JA ABERTAS DAS 19 AS 22 HORAS